

「海老名ノスタルジア」を開催します

温故館 ☎(2)3(3)4028 / 歴史資料収蔵館 ☎(2)3(3)3611



温故館 歴史資料収蔵館を会場に、常設展示では紹介しきれない資料を展示公開します。

温故館では「昭和30～40年代の海老名」として当時の暮らしや風景などを写真や映像などで、また、歴史資料収蔵館では「空からみた海老名」として市内の変遷を航空写真で紹介いたします。私たちのふるさと海老名の懐かしい姿を、ぜひご覧ください。

▼期間 10月25日(火)～12月25日(日)

▼時間 【温故館】9時～17時15分 【歴史資料収蔵館】9時～17時15分※(月)休館

▼温故館の主な催し

教育映画「おかあさんのしごと」…昭和31年当時の、海老名の農家の日常を記録した貴重な映像を、期間中の10時30分と14時から毎日上映します。

「昭和のはなしを聞いてみよう」…期間中の毎週(日)13時30分から、温故館スタッフ

が当時の様子を紹介します。

【空からみた海老名】



歴史資料収蔵館(河原口2-27-3)

【昭和30～40年代の海老名】



温故館(国分南1-6-36)

昭和のはなしを聞いてみよう

昭和30～40年代、小学生時代を海老名で過ごした温故館・歴史資料収蔵館スタッフに話を聞きました。



▲温故館では、企画展期間中の日曜日13時30分から、懐かしい海老名の様子を紹介します

◆学校生活

有馬小学校には社家分校と門沢橋分校があり、4年生までは分校で過ごし、5・6年生は本校(有馬小)に通いました。用務員さんがチャイム代わりにの鐘を鳴らしていましたね。

海老名小学校にも柏ヶ谷分校がありました。柏ヶ谷から来る子たちは、当時まだ「かしわ台駅」がなかったので、「大塚本町駅(現在は廃駅)」や「相模大塚駅」から相鉄線に乗って来ていましたね。

運動会は地域の一大イベントでした。地区別対抗のリレーなどは大変盛り上がりましたよ。お祭りのように屋台も出していました。海老名小名物の運動会の競

歩いていました。結婚式も自宅で挙げたので、ご近所みんなで、ご馳走を作ったりして、楽しみにしていました。

◆史跡・文化財など

相模国分寺跡(写真②)は、今よりも木が多く、草が茂っていましたが。かつては熊野社という祠があったので、近くの人は「おくまもり」と呼んでいました。

周囲には布目の模様が入った瓦がたくさん敷かれていて、それで遊んでいました。相模国分寺跡にしても、自分たちには遊び場、史跡という意識は全くなかったですね。瓢箪塚古墳も、「ひょうたん山」と言っていて、それが古墳で、前方後円墳だということを知ったのは後年になってからでした。

なんじゃもんじゃの木(写真③)にしても、大きな木だな、くらしい印象で、記念碑の台座の上でままごとをしたり、穴に入って遊んだりしていました。その木が県の天然記念物で、半井驢庵の屋敷があった場所だとは、大人になってから知りました。

◆風景

当時の相鉄線は単線で、今も直接並木橋につながっている坂も砂利道で、橋までぐるっと回っていかないと行けませんでした(写真④)。

海老名駅の駅舎も今より北側、現在のセブンイレブンのあたりにありました。大雨が降ると砂利の道がぬかるんで、駅前は大変でした。

相鉄の路線バスが駅前から本郷の「居合下」まで出ていました(写真⑤)。駅前には立ち食いそば屋さんや雑貨店がありましたよ。

昭和30年代前半、J R相模線はまだ蒸気機関車が走っていました。機関車が通るとよく手を振っていましたね(写真①)。当時は農耕用の牛が道を普通に

日々の暮らし・風景  
懐かしのわがまち海老名



①昭和30年代前半、中野付近を走る相模線最後の蒸気機関車 ②昭和43年頃の相模国分寺跡 ③昭和40年代の有馬のはるにれ(※)。通称・なんじゃもんじゃ ④昭和34～35年頃の並木橋付近(個人蔵) ⑤昭和45年頃の海老名駅舎 ⑥昭和40年代の瓢箪塚古墳。通称・ひょうたん山

※…二し科の落葉高木。江戸の御典医、半井驢庵がこの地に構えた屋敷内に植えられたものと伝わる。木の名前が分からなかった村人たちが「なんじゃもんじゃ」と呼ぶようになったといわれている。県指定天然記念物。